

「今を大切に」・東日本大震災から 14 年

校長 松本 雅史

みなさんおはようございます。

いよいよ今のクラス、学年での生活も今日を入れて 10 日となりました。6 年生は 11 日です。

一日一日を大切にとよく言われます。では、どう過ごすことが、一日一日を大切に過ごすことなのでしょうか。

時間をどう過ごすか、時間をどう使うは、皆さん一人一人が決めることです。

明日が漢字テストだぞという日は、きっと漢字の復習に時間を使うのが、「時間を大切に使う」一つの姿でしょう。遊んでしまっただけで復習をしなかったら、「時間を無駄にしたな」と思うでしょう。

では、あとわずかです。3 学期も終わりという、今この時、「時間を大切に使う」というのは、一体何をすることなのでしょうか。学校は、勉強をするところです。だから、今やっている学びに真剣に取り組むこと、自分からすすんで発言することも「今を大切にすること」といえるでしょう。

そして、学校は友達をつくることです。人と人とが心を通

わせて、助け合っていくことの楽しさや素晴らしさを学ぶところですよ。

人と人との関わる中には、いじわるをされたりしたり、けんかをしたりといった悲しい経験もするでしょう。しかし、それでも乗り越えて、手と手を取り合って同じ明日を目指していく生き方を学ぶのが学校です。

「一日一日を大切に」といったときに、大切なことは、先生は「あ」「い」「う」「え」「お」だと思っています。

この「あ」「い」「う」「え」「お」の話は、今年の始業式で話しました。皆さんは覚えていますか。

「あいさつ」～明るい挨拶、自分から関わる心

「いじめなし」～人を大切にする心、悪を許さない心

「うつくしさ」～美しい言葉、頑張る姿

「えがお」～やりきった笑顔、やさしい笑顔

「おもいやり」～相手をリスペクト、尊敬する心
です。

これを心がけて、

かけがえのない先生、仲間と最後の 10 日間 11 日間を素晴らしい時間にしていきましょう。

さて、明日は 2011 年の東日本大震災から 14 年目となります。皆さんは、14 年前に東日本大震災が起きたとき、真っ先に救援隊を送ってくれたのはどこの国だか知っていますか。

それは、トルコです。



トルコは、1999 年に巨大地震に見舞われ多くの尊い命が亡くなりました。その時に一番早く現地に救助隊を送ったのが日本だったのです。そのことをトルコの人たちは忘れていませんでした。

「恩返しの気持ちで活動しました」
というトルコの方々のコメントが残されています。



お隣の中国もレスキュー隊員を送ってくれました。中国でも2004 年に四川大地震という震災が起き、6 万人もの尊い命が亡くなりました。そのときに、中国の日本企業が真っ先に支援を申し出ました。中国の方々もそのことを覚えていてくださったのです。

「今度は我々の出番だ」
というコメントが残されています。

つらいとき、困ったとき、支え合うのが人間社会です。それは、学級の仲間も一緒です。

これからの地球も、そうやってみんなで助け合って支え合ってすすんでいく、そんな未来を、クラスの仲間を大切にするところからつくっていきましょう。
これで、今朝のお話を終わります。